



# まきび通信

校訓：夢へ みんなで まっすぐに

岡山県立倉敷まきび支援学校

学校だより

令和6年度1月号



## 【2025年(令和7年)が始まりました】

今年も、大きな災害や事故もなく穏やかに始まりました。令和7年の干支は、「巳、へび」ですね。へびは、脱皮します。皮を脱ぎ捨て新たな姿に生まれ変わります。こうした意味から、巳年は新しい挑戦や変化に対して前向きなことができる年と言われています。始業式では、そうした巳年のいわれを紹介し、「新しいことに挑戦し、ますます成長してほしい」と児童生徒に話をしました。学校としても、さらに充実した教育活動を行っていきたくと思っています。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

昨年には、高等部の製菓班が土師邸で製菓販売、フードサービスコースがパン販売、環境サービスコースが公民館の清掃、流通サービスコースと木竹工芸班がふなおワイナリーで展示販売をしました。今年も、自分たちの学習の成果を生かして、人と繋がったり関わり合ったりすることを大切に、児童生徒の頑張りや学校のことを多くの方に知っていただきたいと思います。 (校長 金島 一顯)



## 【まきびカフェ】

12月2日に「第2回まきびカフェ」を開催しました。今回は神戸教育短期大学から中塚先生をお招きし、「レジリエンス(精神的回復力)を高めよう!!」という講演を聞きました。このレジリエンスとアタッチメント(=愛着・特定の人に対する情緒的きずな)とは関連があること、リスクや逆境を乗り越えた子どもたちの特徴に「つながる力 人と相談する力 助けを求める力」が見られること、それらは成長の中で信頼できる人に出会うことでも培われること等を中心にご説明いただきました。「この人がいてくれたら、自分は安心だ!安全だ!」と思う人がいれば、アタッチメントが形成されてレジリエンスも高くなるというものです。

話すことで人とつながり、相談できる関係になることは何も子どもたちにだけ必要なものではありません。まずは保護者の方も自分の安全基地を作っていきましょうというお話から、

「偏愛マップ」なるものをご紹介いただきました。この偏愛マップには自分の好きなものを書き込んでいきます。最初は戸惑い気味だった保護者の方々も、できあがった偏愛マップをもとに少人数で自分の推しやりラックス方法等について語るうちに緊張がほぐれたようで、意外な情報、知らなかった世界を垣間見つつ、話が弾んでいった素敵な時間でした。参加した保護者の方々から

「同じ『好き』があるって話が尽きない、楽しい」「趣味がみんなそれぞれで楽しい」

「『好き』が同じ人がいるのは嬉しい! ついついしゃべりすぎる」等、楽しい時を過ごされたことが分かる感想をいただきました。

今回も総社市の就労継続支援B型事業所「まーる」様より美味しい珈琲のご提供とお菓子の販売があり、会が終了したあとも、そのまま楽しくお話を続ける保護者の方が多くいらっしゃいました。

今年度は第1回目が警報発令により開催できなかったため、第3回を2月4日(火)に予定しています。またお知らせを配付しますので、少しでも気になった方はぜひ気軽にご参加ください。珈琲の香りに包まれながら、日頃のちょっとした困りごと等を口にして、少しでも保護者の方の気持ちがほぐれる時間になればと考えています。 (指導教諭 黒川 由美)

